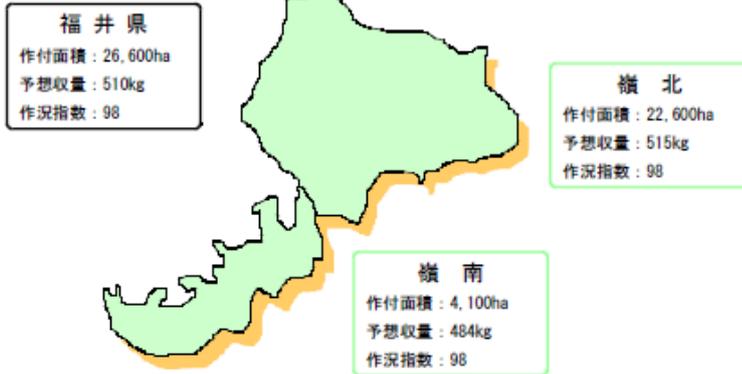


平成26年産コシヒカリの検査状況について

■作況指数 98 やや不良なものの、高温登熟回避で品質は良好■

平成26年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(福井)

作柄表示地帯別作付面積（青刈り面積を含む）、
10a 当たり予想収量及び作況指数



平成 26 年産米の品質につきましては、8 月上旬の台風通過後の日照不足による品質の低下が心配されましたが、各倉庫での検査結果を見ますと集荷数量に於いては少なくなったものの、品質については近年問題となっている白未熟の登熟は少なく、上位等級比率は高く推移しています。倉前検査(10月5日現在)におけるコシヒカリの上

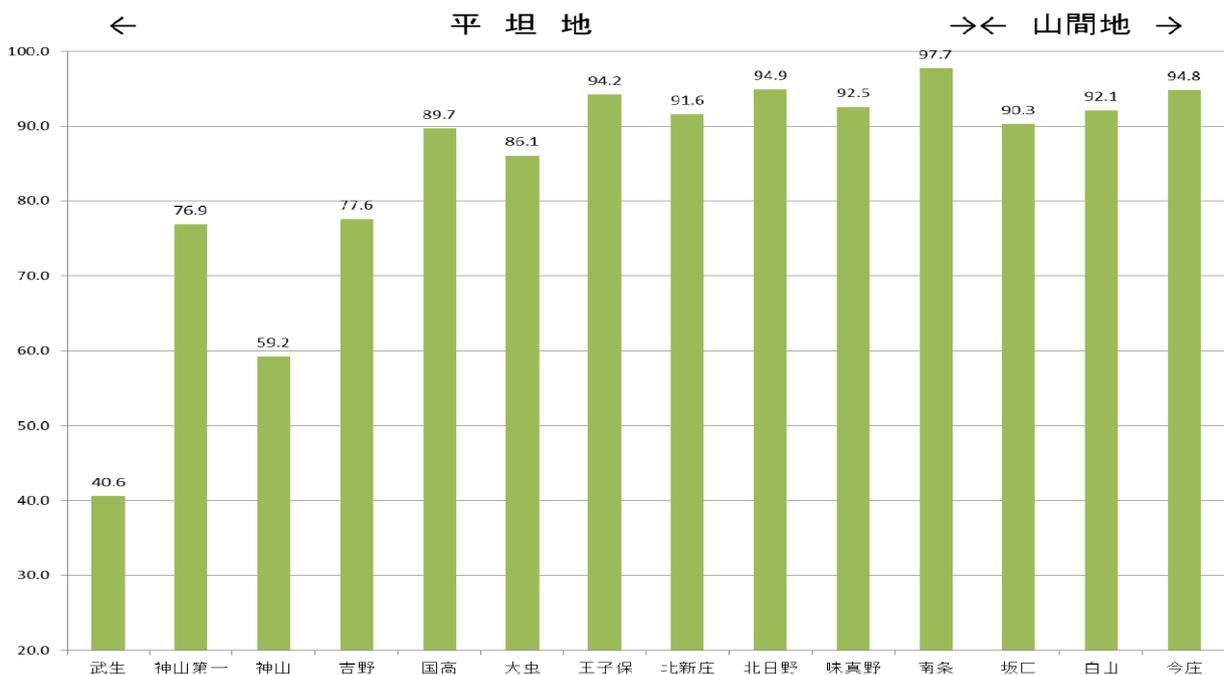
位等級比率は 91.1%となっており、前年の 42.1%から大幅に改善しました。

地区別にみると特に昨年度上位等級比率が低かった武生、神山第一、吉野、国高、大虫、王子保、北日野、味真野の様な平坦地の品質が改善されています。

中山間地は、昨年同様 90%を越える高い上位等級比率で推移しております。



平成26年度コシヒカリ(倉前)上位等級率比較表



特別栽培省農薬あきさかりとは

■ 無化学肥料・節減対象農薬8割減栽培 ■

JA越前たけふでは、実需者との播種前契約による米の販売を進める中で、現状の福井県の認証区分③「無化学肥料・節減対象農薬5割減」よりも、更に環境に優しく、生物多様性保全に効果のある「無化学肥料・節減対象農薬8割減」で栽培された「あきさかり」について本誌裏面のとおりにインセンティブ買入制度を決定しました。

この栽培については、認証①の完全有機栽培に近いものの、栽培期間中、本田において初中期一発除草剤を1回のみ使用できるため、除草や病害虫防除のポイントをしっかり抑えれば比較的容易に取り組むことができます。

★ 取組要件

1. 基肥、穂肥だけでなく苗箱の床土も有機肥料入りのものを使用する。
2. 農薬使用成分は認証区分③の10成分(20成分5割減)より少ない4成分(20成分比8割減)で、指定した初中期一発除草剤が1回のみ使用できる。
3. 苗箱への殺菌剤(ダコニール)の灌注やイネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、いもち病の予防剤(スタウトダントツ剤)の散布ができないため、耕種的防除を実施する。
4. 収穫までに数回は草刈り機による畦畔の除草と本田内のとりこぼし雑草の除草を。
5. 実需者からは胴割粒や斑点粒のクレームが多く、色彩選別機による調整が必須。

葉いもち病



紋枯病



ヒエ、クサネム



カメムシ



👉 栽培のポイント

① 病害防除

いもち病や紋枯れ病は窒素過多、過剰生育になると発生しやすくなるため、植え付けの段階から密植を避け、薄播き・細植えを徹底する。又、秋口から田んぼへケイ酸を補給し、深耕することで、生育中の茎葉を硬くし、稲の活力を高めることで病気に罹りにくくする。

② 除草対策

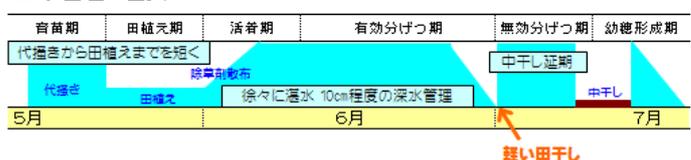
ノビエは代掻き後から伸び始め、2週間で2.5期になるため、代掻きから田植までの期間を空け過ぎないこと。又、田植後は稲の生育にあわせ、徐々に深水管理を徹底し、7月10日頃まで田面を露出させないようにする。(中干し延期)

③ 斑点米防除

カメムシ類は畦畔のイネ科雑草が好物のため、水田周辺から侵入するカメムシ類の密度を低くするために、畦畔の草刈り及び本田内の除草をこまめに行う。



■ 水管理の目安



担い手農家 大規模経営の方へ

約1割の面積を目標に作付を!

更に環境に優しく、生物多様性保全効果の高い農法へ